

佐賀県嬉野市

松田 二郎

年齢 : 31歳

営農類型：工芸農作物（お茶） 28a

その他：BAR経営

就農のきっかけ

高校生の頃からの夢だったカフェを経営するために、大学の経済学部で在学しながら、特にコーヒーについて学んでいたところ、通訳の仕事で、嬉野茶生産者の言葉を海外に発信したことが就農のきっかけです。その際の生産者さんの話が面白すぎて、衝撃を受けました。日本人なのに、なぜコーヒーに興味を持ったんだろう。なぜお茶の作り方も知らなかったんだろうとお茶に対する情熱が湧いてきました。

就農時に活用した支援（次世代資金準備型・開始型）

お茶を学ぶために主要な生産地を周りましたが、一番ストイックにお茶を作っていると感じたのが、就農地に選んだ嬉野でした。お茶園は引退された農家さんから譲っていただき、就農しました。お茶は初期投資のハードルが高いことから、新規就農される方が少ない分野ではありますが、先輩農家を手伝うことで機械を使わせてもらうなどし、初期投資を抑えるとともに、生活費を国からの資金で担保しながら、市場調査を行い、出口を確保することから始めました。ストイックに作っている嬉野茶の価値をあげていくために何とかしたいという思いがありました。

現在の課題について

お茶飲んだら『ほっこりするよね』という感覚が日本人の心にはあると思います。今のお茶はほっこりしすぎていて、刺激を加えて、進化していかないと、産業として無くなっていくのではないかという危機感を持っています。

お茶は、世界的にみると嗜好品とされているところが多いと思いますが、日本人は、昔から生活の中に深く入っているもので、そのためにお茶の価値が下がっている印象です。日用品としてではなく、嗜好品として、お茶の価値を再構築していかなければならないと感じています。

新規就農者にむけて

お茶の価値を最大限に上げるために、こだわりのお茶を提供するBARを週4日営業しています。自分で生産したものを直接消費者に届ける新規就農者の経営モデルとして確立することで、就農者が増えてくればと思っています。

地域団体への加入状況

嬉野茶時の活動に参加しています。お茶農家、旅館経営者、デザイナー、カメラマン、市役所職員などの総勢約40名で組織し、様々なプロジェクトを立案・実施してきました。嬉野茶時として、特に最近は『茶空間体験』というプロジェクトをメインで活動しています。

今後の目標と取り組みについて

現在、生産しているお茶は、BARでの使用分と予約販売でほとんど消費しています。引退する農家が多く、茶園は余っている状況にはありますが、立地条件等を勘案し、少しずつ拡大をしていく予定です。こだわりの嬉野茶を多くの人に知っていただき、価値の再構築・最大化を目指します。